

この一冊

岩城光英
参議院議員



私がこの本を読んだ

のは、平成二年十月に
いわき市長に就任した
時です。平泉文化には

ゆかりの
深い市町
村が集う

改革の「火種」を燃やし続けた理想のリーダー像

かな街つ
くりと市
政の改革

だと思いません。
その中でも白眉の一冊

江戸時代中期の米沢藩(上杉十五万石)

膨大な借財を抱え
政の立て直しを図って

いきま

私が特に感動したの
の興譲館を再興して身
仲間を増やし、個性豊

「藤原サミット」が開
催された際、講師の童
門冬二先生から直接頂
きました。

童門先生は東京都庁
に勤務された経験もあ

ながらも、現代風には「民こそ国の宝であ
り、国の源である」と
いう鷹山の政治信条で
の進むべき道を明示
し、およそ封建時代と
は思えない革新的な政
策を奉行して藩財政の
再建に成功しました。

「お前たちは火種に
なる。そして、多くの
新しい炭に火をつけ
る。新しい炭というの
は藩士であり藩民のこ
れだと思いません。」

鷹山はその後、藩校
方に学びながら同志や

鷹山はその後、藩校
方に学びながら同志や

『小説 上杉鷹山』

童門冬二著
学陽書房

「お前たちは火種に
なる。そして、多くの
新しい炭に火をつけ
る。新しい炭というの
は藩士であり藩民のこ
れだと思いません。」